

～今後の管理のポイント～

- 収量・品質向上のために、追肥を行いましょう。
- 雑草の発生状況を確認し、茎葉処理剤の散布を行いましょう。
- 排水対策を徹底しましょう。

1 気象経過

- 気温は平年より高い期間が長く続き、特に2月第3～4半旬は最高気温が12℃を超え、平均気温も平年より5℃前後高くなりました。
- 日照時間は2月第5～3月第2半旬にかけて、平年並み～平年を下回りましたが、3月第3半旬以降は多照で推移しました。
- 降雪量は2月第1～4半旬にかけて合計0cmとなり、少雪の傾向で推移しました。

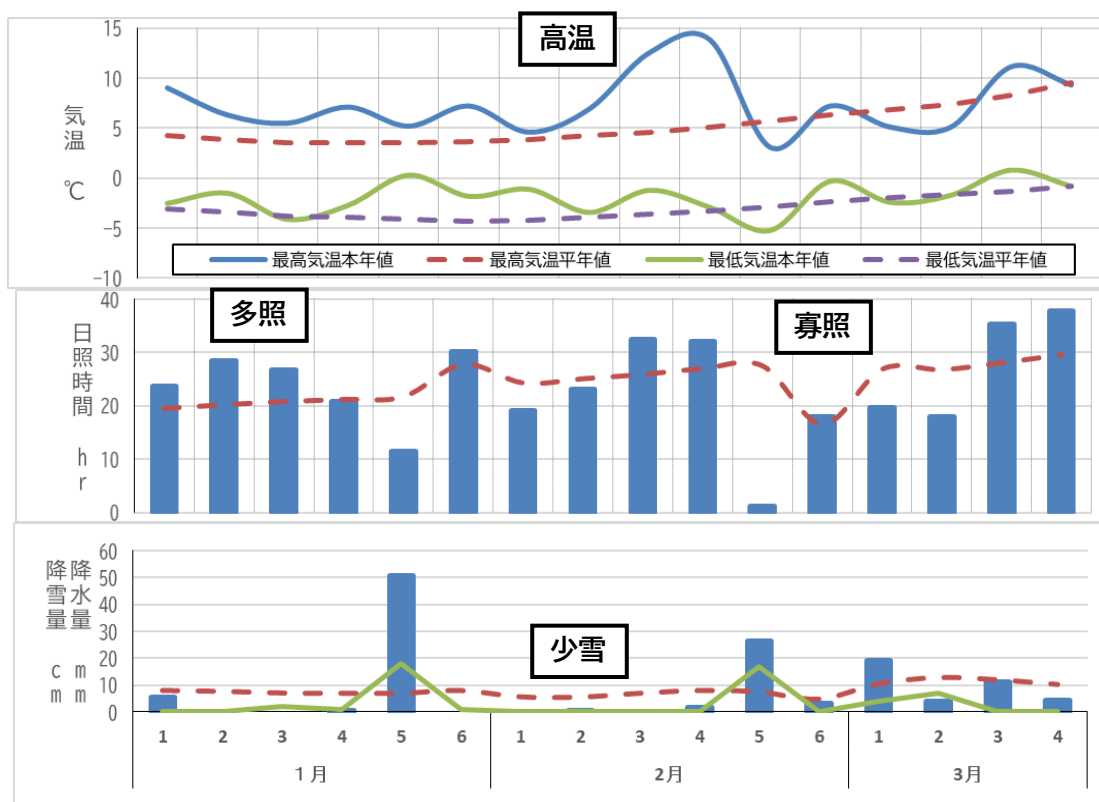


図1 1月第1半旬から3月第4半旬までの気象経過 (古川アメダス)

※1 実線又は棒グラフが本年値、点線は平年値

2 生育状況(3月20日現在)

(1)小麦「シラネコムギ」

- 生育量は、草丈が 19.2 cm (平年比 165%)、莖数が 1685 本/m² (平年比 209%) と平年を大きく上回っています。
- 幼穂長は 1.89 mm(平年差+0.90mm)となっています。生育ステージは、幼穂形成始期～幼穂形成期になっています。
- 野鳥による葉の食害がわずかに見られていましたが、回復傾向になっています。

表1 生育調査結果

地区名 品種名	播種日			草丈 (cm)			莖数 (本/m ²)			幼穂長 (mm)		
	本年	前年差	平年差	本年	前年比	平年比	本年	前年比	平年比	本年	前年差	平年差
古川 シラネコムギ	10/20	-3	-4	19.2	125%	165%	1685	147%	209%	1.89	+0.49	+0.90

※1 平年差(比)は、過去5か年(令和元年～令和5年産)の平均値との比較

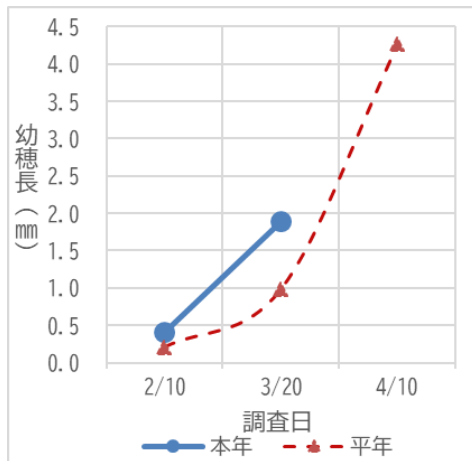


図2 幼穂長の推移



写真1 幼穂



写真2 生育状況(左:2月10日調査、右:3月20日調査)

3 今後の生育ステージの見通し

- 「シラネコムギ」の今後の生育ステージは、減数分裂期が平年より6日、出穂期が平年より4日早くなると予測されます（表2）。

表2 「シラネコムギ」幼穂長による生育ステージ予測

地区名 品種名	播種日			減数分裂期			出穂期			開花期
	本年	前年差	平年差	本年予測	前年差	平年差	本年予測	前年差	平年差	本年予測
古川 シラネコムギ	10/20	-3	-4	4/24	+3	-6	5/4	+4	-4	5/15

※1 平年差は、過去5か年（令和元年～令和5年産）の平均値との比較

※2 普及に移す技術第91号（麦類の生育ステージ予測シート）をもとに予測

4 今後の管理

(1)追肥

収量・品質向上のためには追肥が必要となります。実際に麦の幼穂長を測定し、適期の追肥を心がけましょう。

表3 「シラネコムギ」追肥時期と施肥量の目安

追肥の時期	幼穂形成期 (幼穂長2～3mm)	減数分裂期 (幼穂長30～50mm)	穂揃期 (8～9割出穂)
目的	有効茎歩合増加 (穂数の確保)	一穂粒数の増加 登熟良化	子実タンパク質含有率 の向上
追肥時期	3月下旬～4月中旬	4月下旬～5月上旬	5月中旬
N成分量 (kg/10a)	2.5	2.5～5	2.5
硫安の場合 (kg/10a)	12	12～24	12
尿素の場合 (kg/10a)	5.4	5.4～11	5.4

【幼穂長の測定方法】

- ① 生育中庸な株の長い茎を3本以上採取する。
- ② 茎の膨らんでいる部分を手で剥く、またはカッターで縦方向に切り裂く。
※ 勢いよくやると幼穂がちぎれてしまうので慎重に！
- ③ 茎の中心部分にある幼穂の長さを測定する。
※ 芒は幼穂長に含めない。

(2)雑草防除(茎葉処理剤)

雑草は光合成の競合、病害虫の誘発、種子混入等により品質・収量に影響します。**特に今年は平年より雑草の発生が多く見られています。**雑草の発生状況と麦の生育状況を確認し、早めの散布を心がけましょう。

表4 茎葉処理剤一覧

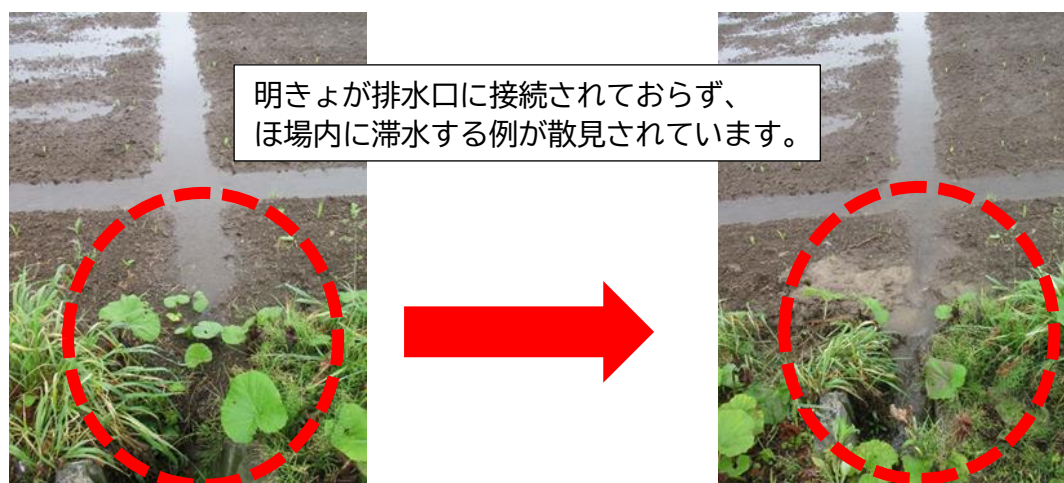
除草剤名	対象	使用時期	希釈倍数使用量 (散布液量)	本剤 使用回数
ハーモニーDF	スズメノテッポウ	は種後～節間伸長前	5～10g/10a (通常散布50～100L/10a)	1回
	一年生広葉雑草	は種後～節間伸長前	5～10g/10a (通常散布50～100L/10a)	
	カズノコグサ	麦1葉期～節間伸長前	10g/10a (通常散布50～100L/10a)	
	一年生広葉雑草	節間伸長開始期～穂ばらみ期 (ただし収穫45日前まで)	3～10g/10a (通常散布50～100L/10a)	
	ギンギン類	幼穂形成期 (ただし収穫45日前まで)	3～5g/10a (通常散布50～100L/10a)	
MCP ソーダ塩	一年生及び多年生広葉雑草	幼穂形成期 (ただし収穫45日前まで)	200～300g/10a (70～100L/10a)	1回
アクチノールB 乳剤	一年生広葉雑草	穂ばらみ期まで(雑草生育初期)	100～200mL/10a (70～100L/10a)	2回以内
エコパート フロアブル	一年生広葉雑草	小麦節間伸長開始期まで (広葉雑草2～4葉期、 ヤムグ 2～6節期) (ただし収穫45日前まで)	50～100mL/10a (100L/10a)	2回以内

※農薬の登録情報(令和6年3月15日現在)

(3)排水対策

麦は湿害に弱い作物です。節間伸長期の湿害は、弱小分げつの枯死や穂数の減少に繋がります。ほ場に水を停滞させないように排水対策を徹底しましょう。

- 明きょ…手直し、管理機等で溝を作り、排水口まで繋げましょう。
前作水稲ほ場では、稲わら等が排水口に詰まっていないか確認しましょう。



- 暗きょ…栓が閉じられていないか再確認しましょう。

東北地方 1 か月予報

(3月23日から4月22日までの天候見通し)

令和6年3月21日
仙台管区气象台 発表※抜粋

<特に注意を要する事項>

期間の前半は、気温がかなり高くなる可能性があります。

<予想される向こう1か月の天候>

東北太平洋側では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>

		低い(少ない)	平年並	高い(多い)
【気温】	東北地方	10	30	60
【降水量】	東北太平洋側	30	40	30
【日照時間】	東北太平洋側	30	40	30

<気温経過の各階級の確率(%)>

		低い	平年並	高い
1週目	東北地方	10	40	50
2週目	東北地方	10	30	60
3~4週目	東北地方	20	30	50

◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆農作業安全確認運動(3月1日~6月30日)◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

近年、様々な農業機械の普及、農業従事者の高齢化等により、機械操作のミス、過信と慣れによる安易な作業が重大事故に結びつき、依然として農作業死亡事故が発生しています。安全フレーム・キャブ付きトラクターの使用や、シートベルト、ヘルメットの着用を徹底し、農作業安全に努めましょう。

令和6年スローガン 「徹底しよう！農業機械の転落・転倒対策」

「大崎地域の稲作技術情報」、「大崎地域の大豆作技術情報」、「大崎地域の麦作技術情報」は、当普及センターのホームページでもご覧いただけます。インターネットで「大崎農業改良普及センター」と検索または右のQRコードを読み取ってください。

